

中学校 社会科



1 学習評価で大切にしたいこと

(1) 単元を見通した学習評価

社会科では、単元のまとまりを見通して学習課題を設定し、資料等を調べ、多面的・多角的に考察したり、選択・判断したりしながら、学習課題を追究・解決します。そのため、単元を見通した目標や評価規準を設定することが重要になります。

(2) 学習状況を把握し、指導に生かす評価

生徒に学習の見通しをもたせるため、社会的事象についてどのような記述があれば、どう評価するか等、評価の方針や方法を生徒に事前に伝え、それを生徒の学習改善につなげることが大切です。

2 評価の観点と趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容と合わせて下記に示す評価の「観点と趣旨」を参考にすることで、評価の基本的な枠組みを捉えることができます。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置づけていきます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したり説明したり、それらを基に議論したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

中学校社会科は「中単元」を「内容のまとまり」とし、評価計画の作成においても「内容のまとまりごとの評価規準」を「単元の評価規準」とすることが基本形となります。

しかし、単元によっては、小単元や大単元を元にしたり複数の単元にまたがって評価規準を設定したりすること考えられます。

- C 日本の様々な地域
- (3) 日本の諸地域
- ① 中国・四国地方
 - ② 中部地方 等
- 大項目
中項目
小項目

3 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する際、下記の視点を踏まえ、単元の目標や学習内容等に応じて設定します。

- 例
- ♠ 知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を身に付けることに向け、粘り強い取り組みを行おうとする側面
 - ♥ 粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

ポイント

「単元の評価規準例」には(♠)と(♥)の2つの側面を位置づけ「課題を主体的に追求しようとしている」としています。

教科の特性や学習内容を踏まえると、単元を超えて評価規準を設定するなど、ある程度長い区切りの中で評価すること考えられます。

第2学年 地理的分野「B 世界の様々な地域 (1) 世界各地の人々の生活と環境」

単元の評価規準例	世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追求しようとしている。(♠)(♥)
----------	---

4 評価の留意点

知識・技能

地名や歴史上の人物等の語句を暗記していることだけを評価するではありません。社会的事象を自分事として捉え、既習の知識及び技能と関連付けて理解し、社会生活の場面での活用につながる知識や技能となっているかを評価します。

思考・判断・表現

社会的事象から学習問題を見だし、比較したり関連付けたり総合したりしながら社会的事象の特色や意義を考えているか、また、学習内容を自分事として捉え、社会への関わり方を選択・判断したりして表現しているか等の学習状況を捉え、評価します。

主体的に学習に取り組む態度

社会的事象について、学習課題を主体的に追究・解決しているかを評価します。評価を行う際の留意点として、生徒が見通しを立てる機会を設ける、学習を振り返る機会を設ける、教師や他の生徒による評価を伝えるなどの工夫が挙げられます。

(※評価の事例については国研資料「『指導と評価の一体化』のための学習評価」中学校 社会 第3編(P.33~)を御参照ください。)